

JTF JOURNAL 2020 01/02 #305

翻訳の現在を知る

巻頭特集

第29回JTF翻訳祭2019



What you seek is What you Get!

のぞむものを、かたちにします。
目指しているものを、実現します。

ウィズウィグでは従来の医薬翻訳に加え、技術翻訳、多言語翻訳(54か国語対応)業務を拡大し、お客様のニーズに応えるため、翻訳者を募集しています。

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

「WysiWyg(ウィズウィグ)」という社名は、「What You See Is What You Get(表示されたものがそのまま出力されるという意味のDTP用語)」からとったものでした。

今、私たちはそこに「k」「!」を加え、望むものをかたちに、目指しているものを実現するという強い思いを込めています。

WysiWyg

株式会社 ウィズウィグ
〒104-0032
東京都中央区八丁堀 2-21-2 コア京橋ビル 6F
TEL : 03-5566-1669 FAX : 03-5566-4808
<https://www.wysiwyg.co.jp/>

医学翻訳教室
アンセクレツォ

医薬品安全性情報報告に必要なスキルを学びながら
医薬翻訳者を目指す教室

フリーランス

特許翻訳者募集 (日英翻訳)



正確性・明確性・簡潔性を基本に、意味等価な翻訳を
心がけている翻訳者の方、歓迎いたします。

Job Titles ①特許翻訳者 ②特許翻訳校正者

Language 日本語 → 英語

Field 制御、電気・電子、化学・材料

Qualifications 特許翻訳経験 5 年以上

Application ご希望職種①または②をご明記の上、
履歴書・職務経歴書を下記のメールアドレス
に添付してお送りください。

info@patdev.jp (採用担当宛)

*書類選考を通過された方にはトライアルを
実施いたします。



定期的に当社社員との交流会を実施しています!

For Your True Value

<https://www.pdi-ip.jp/>

会社概要やその他の採用情報は
ウェブサイトをご確認ください。



株式会社 国際特許開発
Patent Development International, Inc.

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-12-5 四谷 ISY ビル 3 階
お問い合わせ Tel : 03-3355-1071 Fax : 03-3355-0115

事業内容

▶ 外国特許出願支援業務 ▶ 特許翻訳・技術翻訳業務
▶ 国内外特許事務代行業務 ▶ 知的財産関連セミナー

もっと活躍の場を広げたい、翻訳者の皆さまへ

さあ、あなたも

サン・フレア アカデミー

へGO!!

〔新たな分野に挑戦したい〕

50を超える豊富な 講座ラインナップ

幅広い分野の講座ラインナップ。
特許、医薬、法務、金融、ITな
ど学びたい分野の翻訳を学
習できます。

〔スキルアップしたい〕

翻訳業務にすぐに役立つ セミナーも随時開催中

セミナーや講習会では、翻訳技術や
翻訳に役立つ知識、スキルを身につ
けることができます。短期集中型なの
で、気軽に受講できます。

〔仕事の場を広げたい〕

翻訳実務検定「TQE」合格で (株)サン・フレアの登録翻訳者に

「翻訳実務士®」認定試験である「TQE」
はどなたでも受験できます。年4回実施
し、受験科目は19科目(15分野・英語)と
細分化されています。



詳しくはホームページをご覧ください

サン・フレア アカデミー

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-7 新宿ヒロセビル2階

TEL 03-6675-3965 MAIL academy@sunflare.co.jp



特許翻訳人材募集

フリーランス特許翻訳者

- ・ 高品質の翻訳サービスを提供する意欲のある方
- ・ 専門性と向上心を持ち翻訳に取り組む方
- ・ 在宅で翻訳に携わりたい方

言語	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語 他
選考方法	一次選考：書類審査、二次選考：トライアル

翻訳インターン®

- ・ 特許翻訳の知識を身に着けたい方
- ・ 安定した収入を得ながら学びたい方
- ・ 特許翻訳は未経験または経験が十分ではないが、将来的に特許翻訳者として独立したい方

言語	英語
選考方法	一次選考：書類審査・トライアル、二次選考：筆記試験、面接

応募方法など詳細は www.chizai.jp へアクセス下さい

1976年創立
ISO 9001:2015 認証取得



株式会社 知財コーポレーション

特許翻訳 知財コーポ



フリーランス翻訳者・ 校閲者募集中!

募集分野

- ・メディカル全般
- ・治験・CTD関連
- ・科学論文
- ・マーケティング
- ・観光・小売
- ・金融・法務
- ・技術・Web/IT

募集言語

- ・英日
- ・日英

募集要件

2年以上の翻訳・校閲経験

トランスパーフェクトは、最新の言語テクノロジーやAI翻訳といった次世代の翻訳技術を開発しています。翻訳・校閲をはじめとするさまざまな言語のスペシャリストと、世界の様々な国・地域・分野で、最高の言語サービスを提供することを目標としています。トランスパーフェクトの最新情報はツイッターアカウントをフォローしてご確認ください!

トライアルをご希望の際は下記メールアドレスまで履歴書を添えてご応募ください!

トランスパーフェクトは、世界最大のランゲージ&テクノロジー・ソリューション・プロバイダーです。世界各地に専門の翻訳、校閲スタッフが在籍し、それぞれの得意分野／経験分野を活かした業務を行っています。トランスパーフェクトでは、日本語を「読む力」と「書く力」を重視し、専門家として活躍できる方を募集しています。また、最新の翻訳支援テクノロジーを活用できるように、翻訳者・校閲者のための十分なバックアップ体制を構築しています。



@tpjgram



@TransPerfect_JP



@TransPerfectJapan

トランスパーフェクト・ジャパン合同会社

〒163-1127 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー27F (電話) 03-6911-0707

お問い合わせ: tpj-vm@transperfect.com

ホームページ: <https://transperfect.co.jp/>

選ばれる理由
No.1は

「直感的につかえる」「シンプルで覚えやすい」

業界初AI搭載の翻訳管理システム

MEMSOURCE

— メムソース —

30日無料トライアル版

<https://www.memsource.com/ja/pricing/>

**日本語ブログ・マニュアル
トレーニング動画**

<https://www.memsource.com/ja/manual>

6 翻訳業界カレンダー

巻頭特集：第29回JTF翻訳祭2019

- 8 新たなる時代の幕開け～言葉のスペシャリストたちの新しい船出～ ● 安達 久博
- 10 第29回JTF翻訳祭2019開催レポート ● 伊藤 祥
- 12 会場写真
- 14 翻訳品質 9:30-11:00
質を守る翻訳者の工夫～原稿受領の時点から ● 登壇者：齊藤 貴昭/高橋 さきの
- 16 MT 11:30-13:00
機械翻訳時代のサバイバル戦略 ● 登壇者：井口 富美子/梅田 智弘/加藤 泰/成田 崇宏
- 18 個別分野 16:20-15:50
GALA 発、欧米の翻訳テクノロジートレンド ● 登壇者：Kaori Myatt

連載記事

- 20 通訳の世界
第4回 通訳業とは 通訳業務と契約 ● 松田 太郎
- 22 翻訳テクノロジー論考
第8回 やさしい日本語からの機械翻訳 ● 立見 みどり
- 24 キャンパスで学ぶ翻訳通訳
第8回 神戸女学院大学大学院通訳・翻訳コース ● 西岡 美絵

JTF <ほんやく検定>

- 26 第71回JTF <ほんやく検定>合格者発表
- 28 第71回JTF <ほんやく検定>1・2級合格者プロフィール



表紙撮影：世良 武史

JTF JOURNAL

JTFジャーナル

2020年1/2月号 #305

発行人 ● 東 郁男(会長)

編集人 ● 河野 弘毅



JAPAN TRANSLATION FEDERATION

一般社団法人 日本翻訳連盟

〒104-0031

東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F

TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604

info@jtf.jp https://www.jtf.jp/

無断転用禁止 ©2020 Japan Translation Federation

読者アンケートのお願い

より良い誌面づくりのために
皆様のお声をお聞かせください。



<https://forms.gle/Mch8x3pttmPrbzK36>

今号の「翻訳会社の声」は休載させていただきます。

	イベント名	内容	講師等	主催
2020 1	24	2019年度 第2回JTF関西セミナー http://www.jtf.jp/west_seminar/index_w.do?fn=search	関山 健治 (中大学准教授) 会場：大阪大学中之島センター 講義室304	日本翻訳連盟 (JTF)
	25	第72回 JTF <ほんやく検定> http://kentei.jtf.jp	インターネット受験	日本翻訳連盟 (JTF)
2	4	2019年度 第5回JTF翻訳セミナー http://www.jtf.jp/east_seminar/index_e.do?fn=search	中澤 敏明 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 特任講師) 山田 一郎 (NHK 放送技術研究所スマートプロダクション研究部 上級研究員) 田中英輝 (NHK エンジニアリングシステムシステム技術部 上級研究員) 大嶋 聖一 (時事通信社 社長室国際担当室長) 朝賀 英裕 (時事通信社 東京五輪パラリンピック対策室統括マネージャー) 会場：自動車会館 (東京・市ヶ谷)	日本翻訳連盟 (JTF)
	26	2019年度 第3回JTF関西セミナー https://www.jtf.jp/west_seminar/index_w.do?fn=search#detail	内山 将夫 (国立研究開発法人情報通信研究機構 上席研究員) 木下 潔 (MSD株式会社 グローバル研究開発本部 薬事領域非臨床開発部 非臨床担当マネージャー 薬学博士) 津山 逸 (フリーランス翻訳者) 早川 威士 (株式会社アスカコーポレーション R&D部) 隅田 英一郎 (国立研究開発法人情報通信研究機構、アジア太平洋機械翻訳協会会長) 会場：大阪大学中之島センター 佐治敏三メモリアルホール	日本翻訳連盟 (JTF)
3	6	第11回産業日本語研究会・シンポジウム 「AIが支える産業日本語」 産業日本語研究やデータ活用の中で我々を支えるAI技術に関する研究や取組み、そして、新しい時代の中で様々な形を変えていく日本語に関する最新の知見やトピックスなどを広くご紹介するシンポジウムです。 https://www.tech-jpn.jp/symposium/symposium-11/	窪園 晴夫 (国立国語研究所 教授) 高村 信 (総務省 国際戦略局 技術政策課 研究推進室 室長) サンキュータツオ (学者芸人・漫才師・コラムニスト) 会場：東京・丸ビルホール	高度言語情報融合フォーラム 一般財団法人日本特許情報機構
	12	2019年度 第6回JTF翻訳セミナー https://www.jtf.jp/east_seminar/index_e.do?fn=search#seminar_136	慎 征範 (株式会社ABELON 代表取締役社長) 会場：主婦会館プラザエフ (東京・四谷)	日本翻訳連盟 (JTF)
	15-18	GALA 2020 San Diego 「Globalization 4.0: Shaping the Future of the Language Industry」 アーリーバードの登録は2020年1月31日に終了予定。 https://www.gala-global.org/conference/gala-2020-san-diego	会場：Manchester Grand Hyatt in San Diego (California, United States)	Globalization and Localization Association (GALA)
	16-19	言語処理学会第26回 年次大会 (NLP2020) https://www.anlp.jp/nlp2020/	国内の機械翻訳研究者および開発者が集まる学会としては国内最大級の規模の大会です。 https://www.anlp.jp/nlp2020/	会場：茨城大学水戸キャンパス 言語処理学会 第26回年次大会 プログラム委員会
5	5-6	SlatorCon Media and Gaming2020 SlatorCon London 2020 https://slator.com/slatorcon-london-2020/	併催。スレーターは、2020年5月5日にロンドンで最初のSlatorCon Media and Gamingイベントを開催します。伝統的に保守的な都市ロンドンにあって進化と活気に満ちた芸術的な雰囲気のあるイーストロンドンのアンダーズロンドンリパブルストリートホテルに、言語業界のエグゼクティブ、投資家、技術者だけでなく、世界中のサービスおよび技術バイヤーが集まります。	会場：Andaz London Liverpool Street Hotel (London, England, United Kingdom) Slator
	11-16	LREC 2020 http://www.lrec-conf.org/	The International Conference on Language Resources and Evaluation 会場：Palais du Pharo (Marseille, France)	European Language Resources Association (ELRA)
6	3-5	LocWorld42 Berlin https://locworld.com/events/locworld42-berlin-2020/	LocWorldは、製品、サービス、およびコミュニケーションを各言語のネイティブスピーカーに届けられるように適応させるビジネスに携わる専門家が集まるイベントです。	会場：InterContinental Berlin (Berlin, Germany) The Localization Institute, MultiLingual
	5-7	IJET-31 https://ijet.jat.org/	日本翻訳者協会 (JAT) 主催の英日・日英翻訳国際会議です。	会場：エルガーラホール (福岡) 日本翻訳者協会 (JAT)
	10	2020年度JTF定時社員 総会 https://www.jtf.jp	2019年度事業報告、収支報告 2020年度事業計画、予算審議	会場：アルカディア市ヶ谷 (私学会館) 日本翻訳連盟 (JTF)

注意：この記事に掲載した情報は各団体がウェブサイトなどで公開している情報をもとにJTFジャーナル編集部が編集執筆しています。内容には正確を期していますが、万一誤りや不適切な内容がございましたら日本翻訳連盟事務局までお知らせください。

技術翻訳 法務・法律翻訳

特許翻訳 多言語翻訳

Since 1964



その優れた製品やサービス、日本語だけで売りますか？
世界へ売るなら、多言語対応の翻訳会社ジェスコポーレーションへ

日英

英日

中国語

韓国語

ベトナム語

インドネシア語

その他
アジア言語

その他
欧州言語

求人
情報



随時フリーランス翻訳者を募集中！

得意分野をジェスコポーレーションで活かしてください。ご応募お待ちしております。

日英（特許）（IT、電子、機械）（エネルギー、環境技術）（契約書、法務・法律）（広報、ビジネス）
（鉄道、輸送用機器）（先端農業、バイオ）（経済、金融、会計）

英日（エネルギー、環境技術）（特許）（IT、他）

インドネシア語、タイ語、中国語、台湾語、韓国語、ベトナム語、ミャンマー語、モンゴル語、アジア各国語

トルコ語、アラビア語、ペルシャ語

ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、ロシア語、欧州各国語

FrameMaker オペレーター

JES 翻訳会社
ジェスコポーレーション

New Standards in Translation

募集中！

営業、コーディネータ、
校正スタッフなど、多くの人材を
各拠点で募集しております！

言語 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
韓国語 等（他の言語も募集中）

分野 特許・工業・医薬・金融・ローカライゼーション

内容 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注
テーブルライター 等

応募方法 下記ウェブサイトからご応募下さい



医薬翻訳
Medical



工業翻訳
Industry



Financial
金融翻訳



HONYAKU
CENTER
New Standards in Translation
株式会社 翻訳センター



Patent
特許翻訳



株式会社 翻訳センター JASDAQ
証券コード:2483

大阪 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL:06-6282-5010 E-Mail:info@honyakuctr.co.jp

東京 東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル8階
TEL:03-6369-9965 E-Mail:freelance@honyakuctr.co.jp

名古屋 名古屋市中区錦3丁目25番11号 日生村瀬ビル4階
TEL:052-959-2901 E-Mail:nagoya@honyakuctr.co.jp

募集要項・会社概要等、詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://www.honyakuctr.com/>

The 29th JTF Annual Festival 2019

24 October, the first year of Reiwa era,
PACIFICO YOKOHAMA, JAPAN

特集

第29回 JTF 翻訳祭 2019

新たなる時代の幕開け

～言葉のスペシャリストたちの新しい船出～

Reports

特集写真撮影：世良 武史

天皇陛下のご即位に伴い「令和」という新しい時代が華々しく幕を開けた今年、第29回 JTF 翻訳祭 2019 は天候にも恵まれ、交流パーティーを含め延べ 1,500 名を超える参加者を記録し、盛会のうちに無事終えることができました。ここに、ご参加いただいた皆さま、関係者各位に感謝を申し上げます。

今年は JTF 翻訳祭の原点、成り立ちに立ち返り、9月30日を「翻訳の日」として日本記念日協会に登録申請し、記念日として正式に認められました。この「翻訳の日」を広く内外に周知すべく、日刊工業新聞社との共同企画、産経新聞、SNSでの広報プロモーションを実施しました。JTF 翻訳祭が「翻訳の日」をお祝いするイベントであることを再認識してもらうべく、今後もこのプロモーション活動は継続して行きたいと思っております。

運営面では、昨年の京都開催から導入したスポンサーシップ、参加登録・受付入場システムの採用を維持・継続し、会場をパシフィコ横浜会議センターとしたことにより、従来からの課題となっていた幾つかは解消できたと考えています。参加者からのアンケート結果の集計・分析はこれからになりますが、おおむね好評だったと思います。特に、事前アンケートの結果に基づきサテライト会場を用意できた点に好感が得られたようです（「えっ、全員入れちゃうの?」という声もありました）。また、交流パーティーでは立錐の余地がないほどの大盛況でしたが、予想外の窮屈さで皆さまにご迷惑をおかけしてしまいました。お土産として「JTF だら焼き」をお帰りの際に、皆さまにお渡しできたことを実行委員一同、たいへん嬉しく思います。

実行委員長として、まずはご参加いただいた皆さまに感謝をお伝えし、関係者各位の労をねぎらいたいと思います。本当にありがとうございました。

ただ、幾つかの課題も残りました。これらは節目となる次の第30回記念大会の運営に活かしていきたいと思っております。次回は11月11日パシフィコ横浜で開催いたします。

皆様におかれましては引き続き日本翻訳連盟へのご支援、ご指導の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第29回 JTF 翻訳祭 2019 実行委員長
日本翻訳連盟 理事

安達 久博

Adachi Hisahiro



株式会社サン・フレア代表執行役員福祉社長、JTF 理事。現在、クライアント企業、翻訳会社、翻訳者の三者に共通の課題のひとつである用語集の問題を共に議論し、有用な用語集を提言、提供を目指す用語バンク委員会委員長。博士（工学）。

「新たなる時代の幕開け ～言葉のスペシャリストたちの新しい船出～」 第29回JTF翻訳祭2019開催レポート

2019年10月24日(木)、第29回JTF翻訳祭2019が「新たなる時代の幕開け～言葉のスペシャリストたちの新しい船出～」をテーマに開催された。2018年の関西・京都の芝蘭会館から、また関東に会場を移し、パシフィコ横浜の会議センターで開催され、1,500人の翻訳・通訳業界関係者が参加した。

開場されるやいなや、あっという間に参加者がホールいっぱいになり、あちこちで再会を喜び合う声が聞こえ、「あれ、翻訳者の会とはこんなに熱気ある、フレンドリーな会なんだ」と感じ、人気アーティストのライブ前のように皆の期待が高まっていくのが伝わってきた。受付を済ませると、参加者が一斉にお目当ての第1セッションの会場へ直行、会議室前で整然と待つ姿は壮観であった。

講演内容は、翻訳品質、翻訳プロセス、機械翻訳、特許・医療、個別分野、通訳・その他にカテゴライズされ、「新たなる時代の幕開け」と題された今年は、ニューラル翻訳導入後飛躍的に翻訳精度がアップしたといわれる「機械翻訳」がどの分野においてもとりわけホットな話題で、機械翻訳カテゴリー以外の講演でも、それぞれの分野の機械翻訳に

関する講演があり、または異なるトピックでも機械翻訳に言及されることが多かった。

今年は世間でも大阪メトロの堺筋線を「サカイマッスル」、浜松市の台風19号の避難警報の「川に逃げてください」という機械翻訳の誤訳が話題になった。これらは極端なケースであるが、概してまだ翻訳エンジン単体では人力翻訳の精度には及ばず、ポストエディットが必要とされる。機械翻訳の能力の評価、ポストエディットで人にかかる工数の評価(つまり対価)などにはまだ課題があり、ポストエディット専門のトレーニングの必要性も指摘された。例えるなら現在の機械翻訳は翻訳の現場にハードランディングしたばかりという感じだが、いよいよ機械翻訳の浸透が始まりつつあるのだと感じられた。

個別レポートから一部を先行で紹介する。

「質を守る翻訳者の工夫～原稿受領の時点から」では、ベテラン翻訳者の齊藤貴昭氏と高橋さきの氏の両名から、「翻訳の質」についての考え方と、「原稿受領」の時点から、翻訳ミスを起こさず、問題を早期に見つけて解決していく工夫の数々が紹介された。守りの話というよりは翻訳者の翻訳に対する情熱と愛情が感じられる本質的な内容だ。

高橋氏から「翻訳の質とは何か」、そして「けんかや交渉ごとにも使える訳文」の大切さが語られ、齊藤氏から2016年JTF翻訳祭「誰も教えてくれない翻訳チェック～翻訳者にとっての翻訳チェックを考える～」での翻

訳以降のチェックの講演に続き、今回は原稿受領から翻訳までの工夫について、詳細な工程が語られた。

「機械翻訳時代のサバイバル戦略」は、2019年6月のJTFセミナー「翻訳は消えゆく職業か?! 翻訳者と翻訳会社が共に考える、MT時代に人間ができること」の続編である。前回の内容を踏まえつつ、「翻訳業界でのサバイバル」というテーマで、翻訳者 井口富美子氏、テクノ・プロ・ジャパン 梅田智弘氏、加藤泰氏、ホンヤク社 成田崇宏氏による、登壇者各々の視点から知見が共有され、次の一手への深い議論がなされた。参加者は内容が参考になったのはもちろん、翻訳者と翻訳会社によって建設的な議論・提言がなされている姿勢にも、希望を持ったのではないだろうか。

「GALA発、欧米の翻訳テクノロジートレンド」については、2019年8月、JTFとGALA(Globalization & Localization Association)の間で、業務提携の基本合意が結ばれたことは耳に新しい。GALAは翻訳、ローカリゼーション、言語サービス産業の発展を目的としてグローバルに活動する非営利団体で、GALAとJTFの提携により、JTF会員にはグローバルなネットワークが提供され、相互イベントへの会員の参加を促進、会員同士の交流を持つことで、アジア地域の言語サービス産業の一層の発展を目指すのだという。

Word Connection(FranceおよびJAPAN)代表取締役Kaori Myatt氏がGALAメンバー



を代表して、GALAメンバー企業への広範な取材や統計データから世界の最新テクノロジーの最前線をレポート。日本より圧倒的に多様で多数の最新サービスが幅広く紹介され、機械翻訳の運用が進んでいる実例も紹介されるなど、業界の未来を見据える参考情報が提供された。

この他、今年の翻訳界のトレンドを示すべく、各講演のタイトルをカテゴリー別に列記する。

MT 「ニューラル機械翻訳の最前線」「NMT + PE = 医学翻訳の新たな潮流」「機械翻訳の品質評価を考える」

特許・医療 「法的側面から考える特許翻訳」「みんなで作ってみたい2—NMTはどこまで来たか?—」「チェッカーが見た和英特許翻訳の現状と課題」「メディカル翻訳の将来を考える」

翻訳プロセス 「アジャイル開発時代の翻訳プロセス」「目指すは『三方よし!』」「UI翻訳は何か違うのか?」「玄人な関係を築くための本音トーク90分」

翻訳品質 「JTF 翻訳品質評価ガイドラインの基本」「ISO17100に基づく認証制度の活用について」「『等価である』とは? 英訳で考えてみよう」

個別分野 「産業字幕翻訳の可能性」「英文開示義務化の時代がやってくる」「英文契約書の取り扱い説明書」「モノを売るマーケティング翻訳」

通訳・他 「ISO通訳規格の動向と遠隔同時通訳機材事例」「翻訳者の通訳デビューに欠かせない準備術」「フリーランスの税務申告と節税対策」

好評のランチ付きのランチョンセミナーは初開催の昨年に続き今年も3社の主催により、「機械翻訳とTrados Studioの連携～PEのヒント～SDL ジャパン株式会社」、「AIが教えてくれる機械翻訳 Memsources a.s.」、「MTの今、これから～語り合う、翻訳業界～株式会社十印」と奇しくも、角度の異なる機械翻訳関連のトピックで開催された。

出展会場では38社の翻訳会社、翻訳支援ツールメーカーなど、翻訳関連企業のブースが出展された。

今回運営面では、本会場の他に、希望者が多い講演にはサテライト会場が用意され、両方向じプロジェクター画面を見ながら、講演音声を聞くことができ、「より希望に沿った講演が選べる」と、参加者から大変好評であった。

講演終了後の懇親会も600人と会場から人があふれんばかりの盛況であった。東部男JTF会長の開会挨拶でスタートし、2019年JTF<ほんやく検定>1級合格者(第70・71回)が表彰され、長尾真 京都大学名誉教授が乾杯の音頭をとられた。

その後、SNSで実施された「“翻訳の日”をみんなで祝おうキャンペーン」の結果が発表された。このキャンペーンは、今年、9月30日の「翻訳の日」が(一社)日本記念日協会に

より認定されたことを祝い、翻訳に対する思いをSNSで募集、抽選で10名に、翻訳業界のインフルエンサーから「珠玉の品」がプレゼントされるという企画であった。JTF 翻訳祭が「翻訳の日」を祝う業界イベントであることから、翻訳祭当日に結果発表された。大半の当選者は会場参加者以外とキャンペーンの反響は広く、紹介された愛あるコメントに会場はほっこりした。

帰りにはお土産としてJTF 刻印入りの茶目っ気あふれる「どら焼き」が配られた。ミナト横浜の夜景の中、参加者からは「雲が晴れて道が開けた」、「収穫が多かった」、「自分のやり方を変えたい」など肯定的な感想が口々に聞かれ、各々が各々の新しい船出のヒントを胸に帰途に就くことができたようだ。

JTF 翻訳祭は、翻訳業界の最前線の学界・研究者、ベンダー、翻訳会社、トップクラスの翻訳者、関連業界の代表が、最新動向やご自分のノウハウを、本当に惜しみなく、綿密な準備をして共有してくれる機会だ。特に個人の翻訳者には、普段はなかなか接点を持ちづらい新しい翻訳会社やインフルエンサーの方たちも、胸襟を開いて話をしてくれる、そんな場である。ぜひ、どんなレベルの翻訳者も、足を運んで勉強する価値があると思う。

2020年は11月11日パシフィコ横浜で開催される。

特集レポート：伊藤 祥 (翻訳者/ライター)





The 29th JTF Annual Festival 2019

特集

Reports



24 October, the first year of Reiwa era,
PACIFICO YOKOHAMA, JAPAN

Memories

質を守る翻訳者の工夫～原稿受領の時点から

Talk session 対談



齊藤 貴昭
Saito Takaaki

産業翻訳者／ツール開発者／JTF 理事
某電子事務機メーカーで品質保証業務に携わりつつ社内通訳／翻訳を経験。その後、インハウス会社にて翻訳コーディネータや社内翻訳者／チェッカーを長年担当し、翻訳事業運営も行う。現在、二足の草鞋を履き、産業翻訳者として日英・英日翻訳に従事。製造業の品質保証経験をベースに、翻訳会社として、また翻訳者として翻訳品質を担保する方法を研究してきた。その一部は「翻訳チェックの考え方」として2016年JTF 翻訳祭以来、各所で講演している。翻訳過程で必要となったツールを開発し公開している。



高橋 さきの
Takahashi Sakino

フリー翻訳者／国立大学非常勤講師
大学院修士課程を修了後、特許事務所に入所。以来、特許翻訳と学術系書籍の翻訳・執筆に従事している。翻訳歴（英日・日英）は35年。「日本語の読み・書き技術」や「翻訳技法」について話すことも多い。近年は国立大学でも教鞭を執る。共著書に『できる翻訳者になるために プロフェッショナル4人が本気で教える翻訳のレッスン』『プロが教える技術翻訳のスキル』（講談社）、訳書にシルヴィア『できる研究者の論文生産術』『できる研究者の論文作成メソッド』（講談社）、ハラウェイ『猿と女とサイボーグ』『犬と人が出会うとき』（青土社）などがある。翻訳フォーラム共同主宰。

翻訳の品質管理方法に「型」はないが、「チェックは翻訳後に行く」という発想では、翻訳ミスを根絶することなど到底不可能だ。

この講演では、「翻訳の質」についての考え方と、「原稿受領」の時点から、翻訳ミスを起こさず、問題を早期に見つけて解決していく工夫の数々が惜しみなく紹介された。

最初に、特許・学術系書籍翻訳者の高橋さきの氏から、専門分野から受ける硬い印象を覆す躍動的な表現で、「翻訳の質とは何か」、そして「ぼやっとしか内容の見当がつかない訳文」ではない「けんかや交渉ごとにも使える訳文」の大切さが語られた。

続いて、JTF 理事で翻訳コーディネータ・社内翻訳者の齊藤貴昭氏が、2016年のJTF 翻訳祭「誰も教えてくれない翻訳チェック～翻訳者にとっての翻訳チェックを考える～」での翻訳以降のチェックに関する講演に続き、今回は原稿受領から翻訳までの工夫について詳細な工程を語った。

翻訳の質とは

高橋氏は、翻訳の品質は、訳文の使用場面に即した絶対的品質として計ることが大事だという。

文章というのは、翻訳物に限らず、最低限「伝える・伝わる」という機能を果たすることが不可欠だし、高品質の文章であれば、書いた人の考えを追うことができ、ケンカや交渉ごとにも使える。そうした文章を作成するのも、そうした文章を訳すのもリスペクトされる仕事だし、これが翻訳の質の1点目、つまり、原文を書いた人の考えをリアルに追えるということにつながる。

2点目は、訳文と原文の対応性、つまり、原文の読者が思い浮かべる絵と、訳

文の読者が思い浮かべる絵が一致していることだ。きちんとした訳文になるかどうかは、ひとえに、翻訳者が訳文を書き始める前に「読み」の段階をきちんと完了させ、原文の内容をきちんと「絵」（機械図面、化学式、フローチャートなどでもよい）として思い描いているかどうかにかかっている。

翻訳過程は走り幅跳びにたとえられる。原文を読み込む作業が助走部分、訳出作業がジャンプして着地を決める部分だ。集中力を高めて助走に挑み、読み込みを完成させる。そして、どんな構文が使えるかなど、ありとあらゆることに思いめぐらせてジャンプし、（文字列を置き換えただけではない）適訳に着地する。着地に疑問があれば、助走部分で内容を読みこむところからやり直した。疑問を先送りしてはだめで、納得のいく着地になるまでやり直す。そして、1段落訳し終えたら読み直し、妙な部分にはその場で対処する。このシーンを高橋氏が鳥獣戯画の蛙の絵で「かえるぴょん」と表現されたのが感覚的にしっくりし、わかりやすかった。

訳出作業が走り幅跳びにたとえられたのは、訳出作業には原文や原文言語から離れる瞬間があるからだ。この点は辞書の使い方もそうで、助走時に英和辞典等で見つけた語彙は、「絵」をかくのに役立てたら一度忘れよう。着地時には英和辞典に載っている語彙をシソーラス（類語辞典）のように使う。バスケットボールのピボットにたとえると、原文を読むときに見つけた辞典収載語彙をピボットの軸足のように「そのまま」使う（つまり跳ぶのをサボる）のはだめだ。

機械に何をまかせるか

翻訳プロセスは、手書きやタイプの時代から今日まで変遷を重ねてきた。21世紀に入って原稿を電子テキストで貰う時代になると、前工程として、専門語や固有

名詞を置換しておくことも可能になったし、2010年代に入ると、後工程で、チェックに機械を利用できるようにもなった（CATツールの話はしていない）。つまり、もう随分前から、翻訳時には機械と作業を分担する時代、すなわち、人間しかできないことは人間が行い、機械でもできることは機械にまかせる時代になっているわけだ。

こうした方向性とはまったく逆なのが機械翻訳だ。肝心の翻訳部分はブラックボックスたる機械にまかせ、前後のプレエディットやポストエディットを人間がやっている。これは人間の無駄づかいだろう。できあがる翻訳物の質も問題だが、こうした作業に従事させられる人は言語ハンドリング能力に支障をきたすようになる。この点はずっと注目されてよい。

工程別に品質を守る考え方

齊藤氏は、翻訳の質を守るには、事後に間違いをもぐら叩きするのではなく、最初から間違えないことが大切だという。つまり、原稿受領後の事前準備から翻訳で、質を守るための工夫が大切だ。また、人間の能力を過信せず、間違えても、間違いに必ず気づける「仕組み」を盛り込むことが大切だという。

齊藤氏は事前準備と翻訳では、誤訳と誤記の撲滅に焦点を当てている。

事前準備編

依頼元から受領する主なものに「原稿」「用語集」「参考資料」がある。用語集は、量が少なければひと通り目を通し、問題箇所を問い合せる。また、参考資料は、「用語」や「表現」の適用が目的なのか「原稿理解のための参考情報」なのか、使用目的を確認する。

原稿は、まず、翻訳および翻訳チェックで使用している自作ツールに合せて、原

稿をワードに変換し、複製を2つ作成している。原稿を汚さず、複製に作業を行うためだ。

原稿の事前準備で行うことは、翻訳の質を守るために、誤訳防止の補助情報の追記だ。チェッカー経験から、誤訳の起こる主因は、係り受けや指示語の誤解釈と背景知識不足による誤解釈にある。

そこで、1つ目の複製を通読しながら、統一が必要な用語には印付け、誤解釈しそうな係り受けや指示語には色付け、また、意味不明／間違いの箇所には色付けをしてリサーチを行い、結果をコメント入力する。

原稿通読で大切なのは、思い込みの排除である。熟知した分野だと無意識に原稿を読み替えて誤訳する可能性がある。その場合は、原稿の2度読みや、下から上へ読むなど対策をする。

2つ目の複製は、提供された用語集や自作した用語集・表現集を使い、「原語（訳語）」の形に併記置換して翻訳の参考にする。

用語集と参考資料は次のような事前準備を行う。

資料の数に比例して参照作業時間が増加するので、一度ですべての資料を串刺し検索できるように、用語集も参考資料もテキストファイル形式にして保存する。参考資料に過去訳（原文／訳文）があれば、対訳表を作成し、同様にテキストファイル形式で保存する。

翻訳工程編

準備した1つ目の複製を読みながら、付与した情報を参考に、誤訳に注意しながら翻訳をする。

大切なのは論理的に正しいかを常に意識して原稿を読み、翻訳することである。複数解釈が成り立つところは、反芻して検討し、その場で解決できないところはコメントを付け、後で何度も戻り、解決す

るまでそれを繰り返す。

調べたことはコメント機能で記録し、訳文の根拠として翻訳会社への申し送り事項にする。

翻訳工程でもう1つ大切なのは、誤記防止である。原文のまま使える数字や略語は、原文をコピーして訳文へ貼付けし、手入力／転記による誤記を防止する。用語も、用語集が併記置換された2つ目の複製を参照し、コピーして訳文へ貼付け適用する。

質疑応答

質疑応答では、「印刷して原稿をチェックするべきか？」という問いに、高橋氏は、「良い見直しになるかで判断すべきだ。翻訳時とは違う形で、クライアントが最終的に使う形式でチェックする。紙で縦書きで使用するなら縦書き印刷して読む。大画面で違う向きで読んでみるなど工夫している。」

齊藤氏は、「企業は経費節減で画面チェックを推奨するが、検証したところ、紙に印刷してチェックした方が検出力は高い。また、フォントも変える。例えば規程書・規格書ではセリフ体フォントを使うなど、その文書で一般的に使われるフォントでチェックする。フォントの印象で読み手のモードが変わり、検出力があがるからだ。」と回答された。

講演資料リンク

https://www.dropbox.com/s/1tqv97ojndpayjc/JTF_festival_2019_T1S1_Takahashi_and_Saito.zip

MT 11:30-13:00

機械翻訳時代のサバイバル戦略

Talk session

座談



井口 富美子
Iguchi Fumiko

個人翻訳者、JTF理事

立教大学文学部日本文学科卒業。フンボルト大学文学部留学。翻訳会社勤務を経てフリー翻訳者として独立。産業翻訳の他、文芸翻訳にも従事。欧州との取引で欧州機械翻訳事情に詳しい。



梅田 智弘
Umeda Tomohiro

株式会社テクノ・プロ・ジャパン代表取締役社長
翻訳会社社員、フリーの英日翻訳者を経て、現職。AIやMTの台頭で、翻訳という仕事の魅力の低下に危機感を覚え、「人間による翻訳」の価値の発信を急務と考える。



加藤 泰
Kato Hiroshi

株式会社テクノ・プロ・ジャパン副社長
大学卒業後、飲食店に勤務。飲食業界で培った対人スキルを活かし、リソースコーディネートや人材採用などに従事する。本業の傍ら、Airbnbをはじめ、パラレルキャリアも模索中。



成田 崇宏
Narita Takahiro

株式会社ホンヤク社 翻訳事業部 事業部長
2005年入社。制作業務、ベンダーマネジメント、CAT/QAツール管理、業務管理システムやMTの導入等を担当。現在は実案件にも携わりながら品質や顧客満足度の向上に従事している。

本セッションは、2019年6月に開催されたJTFセミナー「翻訳は消えゆく職業か?! 翻訳者と翻訳会社が共に考える、MT時代に人間ができること」の続編である。前回の内容を踏まえつつ、「翻訳業界でのサバイバル」というさらに踏み込んだテーマで、登壇者各々の視点から知見が共有され、次の一手への議論がなされた。会場は、本会場・サテライト会場とも立ち見が出るなど、前向きに自身の方向性を考えたいという参加者の方々の熱気に満ちあふれていた。

翻訳業界の機械翻訳の現状

最初にテクノ・プロ・ジャパン梅田智弘社長から、前回のセミナーの事前アンケートをもとに、機械翻訳の現状の紹介があった。

アンケートは翻訳者427名、翻訳会社84社から回答があった。

MT（機械翻訳）/PE（ポストエディット）について、翻訳者はネガティブに翻訳会社はポジティブにとらえている傾向にある。今後、仕事をある程度MTに奪われると考えている翻訳者・翻訳会社も多かった。

現在MT/PEの仕事が発注されている分野はIT/工業・科学技術/特許・知財/ビジネスが多かった。

品質については6割が人力と同等の品質を求められると回答しているが、現状のMTではそれは難しい。欧州の翻訳業界団体「TAUS」では、MT/PEのフルエディットであっても「文体の面では問題ないがスタイルの面ではネイティブの翻訳ほどは優れていない水準」と定義されている。

MT使用による価格の割引率は翻訳会社は20%、翻訳者は30%と温度差があるが、驚くべきは50%引きの回答で、MTが50%分の効率化に寄与できているのか疑問である。

MT/PEに想定よりも時間がかかった場合、翻訳会社は費用を負担している、翻

訳者はもらっていないと回答している。翻訳者が黙って作業しているケースも多いと推測される。料金がフェアではない場合にきちんと申告できる会社と翻訳者は付き合うべきと感じた。

PEに向いている翻訳者についての回答は、中堅42.4%、ベテラン21.2%。しかし梅田社長は、PEはベテランにしか無理だと考えているという。ニューラル翻訳で一見流暢になった結果、かえって間違いが見つかりにくく、ベテランでないと見つけられない。PEの需給のギャップが出ていると思うとのこと。

(*アンケート回答者は母集団がMTに関心が高い集団に偏重している可能性がある。)

これから翻訳者が考えるべきこと

次に、JTF理事でドイツ語翻訳者の井口富美子氏が翻訳者の立場から、今後業界全体が進むべき道を語った。

私自身は「逃げ切り世代」かもしれないが、若い世代が心配で6月にセミナーを企画した。その後4か月しかたっていないが急速なMT化の動きを感じる。最近も極めて専門的な翻訳案件の打診があり、納期短縮を目的としてMT原稿を提供されたが、意味不明だったため最初から翻訳した。国内のソースクライアントがMTをよく理解せず使用している実態を垣間見た。

MTの普及ですでに仕事は減っている。大手の欧州企業は社内インフラが多言語MT対応済だ。この2~3年で社内文書の案件は大幅に減った。一方対外的な文書で製造物責任がからむもの、訴訟を回避したいもの、エンドユーザーに対して訴求力が必要なものなどは外部に翻訳を依頼し、その分品質要求も高くなった。他言語から英語に機械翻訳された原稿の和訳を依頼される例も増えたが、欧州言語同士でもMT特有の訳抜けや誤訳が発生す

るため、ミスの責任所在が不明確であり受けられない。複数の駆け出し翻訳者から聞き知った例では、PEではなく機械翻訳の翻訳チェックと言えるような仕事が発注されている。マーケティングなど機械翻訳が不得手な分野では完全な訳し直しになり、翻訳単価の値下げにしか過ぎない状況がある。

MTはコーパスの質が高ければ精度が高くなるが、正確なコーパスの少ない分野は人間がやるしかない。CATツールの導入期には適切な運用法を理解していない翻訳会社も少なくなかったが、同様のことがMTにも当てはまる。特に営業職・コーディネーターの役割は重要だ。価格競争だけに焦点が当てられると、正当な見積もりが通らず、誠実な翻訳会社が淘汰されてしまう。

翻訳者が生き延びるには、優秀な翻訳者になるしかない。昔も今も優秀な翻訳者は不足しており、翻訳会社は常に優れた人材を求めている。トップクラスを目指すべく努力あるのみだ。

翻訳者はMTを使うかどうか自分で判断すべきだ。分野・言語で状況は異なるが、MTをめぐる状況の変化は非常に激しいため、使わないと決めた人も常に情報収集は必要だろう。また、PEを受けるなら条件闘争は必須だ。

翻訳会社はベテランや中堅にPEを受けたいと考えているようだが、そうであれば業界でPEの作業内容を明確に定義し、養成していくべきだと思う。現状のようにPEで高い品質を求められた上に翻訳料を実質3割も下げられては担い手がない。機械翻訳時代のボトルネックはPEだろう。

翻訳会社が果たすべき役割

ホンヤク社執行役員成田崇宏氏は、MT/PEサービスに現在従事している立場から、翻訳会社の果たすべき役割につい

て語った。

MT/PEは正しい運用をしないと、「わかっていないクライアント、できるという翻訳会社、無理を引き受けるポストエディター」というワーストシナリオになりかねない。特に品質評価が適切でないとカオスになる。翻訳エンジン単体では不完全でポストエディターが加わっても人間同等の品質は担保できないことは多い。MT出力を生かす仕様にするべきだ。

ニューラル翻訳は一見スムーズでミスは数%でも、全部の確認が必要で、PE可能かもケースバイケースである。それを「早い安いと言ってしまう翻訳会社、引き受けさせられるポストエディター」という構図では持続可能ではない。

今後MTの精度は上がっていく一方で、翻訳にクリエイティブな要素が減少する。クライアントのコストカットは激化し、スピードへの要求も厳しくなる。MT化はCATツールの時のように大手翻訳会社から中小へという動きになると思われる。

サバイブしていく道は、ベテランは人間しかできないレベルの仕事で逃げ切る。新人は、質の高さを求めるとともに、PEに抵抗がない、興味があるという人は、早く着手して自分の勝ちパターンを見つけ、先行者利益を得るのもありだと思う。ただし、MTの仕上がりへの評価、料金、納期などの考え方が適切で自分を大切にしてくれる翻訳会社を選ぶべきだ。

翻訳会社は、専門性の高さや他社との差別化、MT/PEをきちんと売るといった姿勢が必要だと思う。また、良いポストエディターの確保や育成は今後業界内の大きなテーマになる。

プロ・フリーランスとして生き残る

最後にファシリテーターを務めた、テクノ・プロ・ジャパン副社長 加藤泰氏が

ら、クライアントや他業界のビジネスの流れも踏まえて翻訳者のサバイバルについて提言があった。

人力翻訳と機械翻訳は将来、5:95ぐらいの割合になる可能性があり、トップの翻訳者でなければ、ポストエディターになるしかないという時代になるかもしれない。ビジネスの潮流として、クライアント企業自体も、社員規模を維持できなくなり、MTなどを導入せざるを得なくなってくる。

今フリーランスとして稼げていても、旧来のスタイルに固執し稼げなくなってしまえば、ただのフリーターと同じような状況になってしまう。生き残るためには、

- ①専門性を尖らせ、常に選ばれるためのセルフブランディングが必要。
 - ②違う専門のプロ同士とも連携してチームを作り、お客様の多様なニーズにも対応できる体制を整える。
 - ③複業・パラレルキャリアを視野に入れ、翻訳だけでない仕事のあり方を模索し、リスクを分散する。
- などといった発想が必要かもしれない、とのことだった。

質疑応答

質疑応答では、「翻訳者が自ら有償のMTサービスを契約し、翻訳会社から受注した仕事にそのサービスを使いたい場合、どんなことに注意すればよいか」との質問があった。それに対し、パネリストからは、「翻訳会社は依然、外部のMTサービスに対して品質面、機密面の懸念を抱いている。今はまだ機が熟していないのではないか。今後は、CATツールが徐々に普及していったのと同様、翻訳者が自ら契約したMTサービスを使うことも許容されてくる可能性はある」と回答があった。

個別分野 16:20-17:50

GALA発、欧米の翻訳テクノロジートレンド

Lecture
講演



Kaori Myatt

Word Connection (FranceおよびJAPAN)
代表取締役

米どころ新潟出身。世界が認める美食の地バスク地方在住。フランス在住16年目。翻訳テクノロジーエバンジェリスト。ニュージーランドで保険会社の通訳を務め、日本の測定機器メーカー社内翻訳、朝日新聞社系列会社の記者をしながら20年近くフリーで翻訳、ソフトウェアのローカライゼーション、校正、インターネットメディアライターなど文筆業を営んだ後、2015年にフランスで起業。現在フランスと日本で翻訳会社を2社経営。メディア翻訳記事コーディネーター、大規模・長期の翻訳プロジェクト構築、用語管理テクノロジーを使った翻訳や日本語翻訳のコンサルティングなどのサービスを欧米の企業に提供。趣味は翻訳。

GALA (Globalization & Localization Association) を代表しメンバーのWord Connection (FranceおよびJAPAN) 代表取締役Kaori Myatt氏がGALAの役割とメンバー企業への取材や統計データを交えた欧米における最新テクノロジーをはじめ、激動のテクノロジー時代の最近の動向や考察を業界の未来を見据える参考として紹介した。

GALAとは？

GALAとは、2002年に設立された「ローカライゼーション、言語サービス産業の発展」を目的としてグローバルに活動する非営利団体で、メンバーは企業、関連ソフトデベロッパー、通訳・翻訳者、コンサルタント、政府機関、国際機関、教育機関、NPOなど多岐にわたる。

2019年8月にはJTFとの間で業務提携契約が結ばれた。

GALAの活動は、企業や組織が学びを得、知見を交換できる場として、ネットワーク、人材育成などのため、プログラム、セミナー、イベントなどを開催している。また、GALAのイニシアチブの例としては、あまたあるCATツールの相互運用性を向上するため、xliffにかわるJliffファイルという形式を開発・推進しているTAPICCプロジェクトがある。

ローカライゼーションについて

ヨーロッパはローカライゼーションの主要拠点である。欧州の翻訳業界団体ATCの2019年サーベイによると、メンバー企業の地理別収入は、UK47.73%、EU諸国30.59%、アメリカ15.78%他となっており、世界のローカライゼーション業務の8割は欧州といっても過言ではない。実際仕事が引きも切らない状態だ。

言語産業のリサーチ会社Nimdziの調査では、「翻訳・ローカライズ関連のテク

ノロジー主要国ランキング」は、地域別では欧州、アメリカ、アジアの順で欧州が優勢を占め、国別ではドイツ、中国、UKに続き、日本は7位にとどまる。

翻訳・通訳関連ツール

翻訳ツールには、翻訳ワークフロー管理ツールと翻訳コンポーネント(CATツール)がある。翻訳関連テクノロジーの中で大きな割合を占めているのは翻訳ワークフロー管理ツールだ。Plunet社によると、かつて翻訳業務管理にのみに特化していたツールも、今はビジネスマネジメントシステムへと進化している。翻訳者の選定、割当から請求書の発行までを管理できるが、会計ソフトを組み込んだり、同じプラットフォーム上で翻訳できるものもある。翻訳会社だけのツールからバイヤー向けや、エンドクライアントの社内翻訳管理ツールもある。デベロッパー向けのCrowdinやOneSkyのようなツールもあるが、翻訳者向けではないものは翻訳者には使いにくい面もある。ウェブサイトのローカライズにおいては、WordPressなどのCMSにAPIを使って多国語の翻訳を反映できるものもある。CRM(顧客管理システム)を組み込むツールもある。

カスタマーが求めるスピードとセキュリティの両立、さまざまなCATツールに対応することの難しさや、相互運用性が低いなど課題はつきない。さらなる自動化も期待されている。Flowfitのようなエンドユーザー向けでは、MTとの統合要求が高く、自動化や開発のスピードが早い。

翻訳コンポーネントでは、翻訳エディタと用語管理を一体化した翻訳メモリエディタが主流。QA(翻訳品質チェック)の自動化、レビュー強化の動きがある。memoQのように翻訳しながら用語管理をする例や、CONTENT QUOのQA自動化例を画面で紹介したがQA Auditなど翻訳の品質を自動で定量化して評価するサー

ビスもある。

また、OSと各業務処理を行うアプリケーションソフトウェアとの中間に入る、BeLazyのようなミドルウェアがある。これはAPIやスプレッドシートを使い、小さなプロジェクト管理の自動化・効率化を図るものである。

通訳ツールには、通訳スケジュール管理、カンファレンス通訳管理、リモート通訳管理、音声認識（字幕）、ウェアラブル端末、タブレットなどを用いた通訳の専門用語管理ツールなどがある。

EUの公式言語は24言語あり、会議で同時通訳が必要となる場合には各言語2名、計48名の手配が必要となり、会議の開催場所もまちまちなので、通訳手配のスケジュール管理ツールは必須である。

また、通訳者を集めるのも大変なので、interprefyのようなリモートで通訳ができるアプリも進化し、今ではブースにいるかのようなクリアな音声になっているようだ。

機械翻訳(MT)について

機械翻訳には、Google翻訳などジェネリックと呼ばれる一般向け汎用MTとカスタマイズMTがある。カスタマイズMTにはLILTなど、使っているうちに学習し効果がよくなるアダプティブ型。つくりこむビルド型の他、MTアグリゲータ、ニッチ、エンジンカスタマイズなどがある。

GALAメンバー企業、MTエンジンGlobalese社によれば、MTで良い結果を出すには下準備、カスタマイズが必須である。MTにフィードするデータセットは翻訳の燃料のようなもので、データがあれば品質もよくなるので、カスタマイズの必要性を理解して活用してほしい。

そして、MTエンジンの使用で最も重要なのは、クライアントの期待する品質レベルとの意識のすりあわせだ。

GoogleやAmazon、Microsoftの汎用MTをそのまま使用してのMT処理は生産性が高くない。データが雑多すぎて、専門的な翻訳にはノイズがたくさん出て使えないものにならないからだ。過去の翻訳資産の活用ができれば理想的である。

さて、ポストエディット(PE)のトレーニングについてのNimdziの調査では、未実施・必要ない32.26%、未実施・必要である22.58%、実施(自社のトレーニング)32.26%、実施(他社のトレーニング)12.90%であった。これからはPEのトレーニング分野に開拓の余地があると思われる。

MTの成功例も紹介された。まずスペインの新聞La Vanguardia紙のスペイン語からカタルーニャ語への機械翻訳事例。スペイン語とカタルーニャ語は同じスペインの言語でも相互に通じない別言語である。Lucy Software社が行った前処理は①前処理フィルタとしての翻訳資産のコーパス準備②固有名詞500以上の用語登録③エンジンカスタマイズ④440以上の専用ルール設定(例えば日本語で言えば「箇条書きは体言止め」)④語彙エントリ(16,000語を超えるカスタムエントリ)で、これらにより、日刊新聞のスピーディな自動翻訳が可能になったという。

2つ目は北米のNicon Precision社の例。同社は半導体露光装置などの特殊装置の製造販売を行う会社で、カタログ、仕様書、ウェブサイトなどを社内翻訳している。MTの導入は5年前で、用語集だけで25,000ワード以上を登録したそうだ。現在Globaleseを利用している。

ただし、社外文書でPEの入らないMTの使用は原則禁止、マーケティングの翻訳はすべてを人間のトランスクリエーションで対応するなどの社内ルールを設定し運用している。同社によれば、MTはノンネイティブの英語よりまじだが、間

違いは必ず起きるので、PEは重要という認識を持っている。自社の運用ルールを持つべきだと考えているとのこと。

その他ローライゼーション関連の動向

「機械知能」の活用例として、航空会社KLM・エールフランスがDialogflowを使い、多言語対応で予約確認などができるチャットボットが紹介された。自然言語理解の技術が使われている。

LILTというアダプティブ型のMTは、Zendeskというサポート会社で使われ、サポート業務は定型的な表現が多いので、その多言語化に活用されている。

IntentoというMTアグリゲータはGoogle、Amazon、Microsoftなどの汎用MTから最も適切なエンジンを選んでくれるサービスである。ニューラル翻訳にはそれぞれクセがあるので、選択や使用にも注意が必要だ。

今後に向けて

この度、GALAのテクノロジー関係のメンバーにアンケートしてみると、AIは翻訳業界の仕事を奪う可能性があるとしても、翻訳業界のテクノロジーは、これからの業界の成長、自社の成長などにとっては活用すべきと肯定的に受け止められていた。

質疑応答では、「通訳者翻訳者が今後生き延びるにはどういう付加価値を持つべきか」という問いに、Myatt氏は、「一般と呼ばれる翻訳はMTがやる時代になるかもしれない。だからこそ安価で受けるのではなく、機械ができない、あなただからお願いしたいという分野を開拓すべき」と回答された。

通訳の世界



エージェントからみた通訳業界

国際会議やビジネスの表舞台で活躍する通訳者を舞台裏からささえるのが通訳エージェントです。この連載ではこれまでほとんど紹介されてこなかった、知られざる「通訳エージェント」の世界に読者の皆さんをご案内します。

松田 太郎

株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ
ランゲージサービス事業部 通訳部 次長



フリーランスの通訳者は、通訳エージェントと顧客企業が締結した業務委託契約の下で、通訳業務に対応します。フリーランスの翻訳者も同様の契約で業務を行っていると思います。

ちなみに、日本の法律には「業務委託契約」という言葉はないようで、正確には「請負契約」「委任/準委任契約」と呼びます。この2つの違いは以下の通りです。

・請負契約

成果物を完成させることで報酬を受け取ります。例えば、システムエンジニアが定められた納期までに、発注通りのプログラムを完成させて報酬を受け取るといった契約です。

請負契約の場合、仕事の成果物を納品するまでは報酬請求権は発生せず、受託者は委託者に対して「瑕疵担保責任」を負います。瑕疵担保責任は、受託者が仕事に欠陥・ミスがあった場合に負う責任のことです。業務が契約通りに行われていなかった場合は、修正や損害賠償、契約解除等の責任を負うこととなります。

・委任/準委任契約

契約期間中の継続的な業務に対し、決まった額の報酬を受け取る契約です。成果物が設定できない業務に関し、一定の期間の業務遂行が委任される契約です。法律行為を伴う業務は委任契約、法律行

第4回 通訳業とは 通訳業務と契約

株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズの松田と申します。前回は、通訳業務の基本の流れについて触れましたが、今回は通訳業務とその契約についてお伝え致します。

1. 通訳業務と契約形態

企業の活動に必要な業務は、主に「雇用契約」「派遣契約」「業務委託契約」の3つの契約形態で行われます。

【雇用契約】

労働者が労働を提供し、企業がその報酬(=給与)を与えることを約束する労働契約です。企業には労働者への指揮命令権が発生し、労働者は基本的には成果物の完成責任は法的には負いません。

【派遣契約】

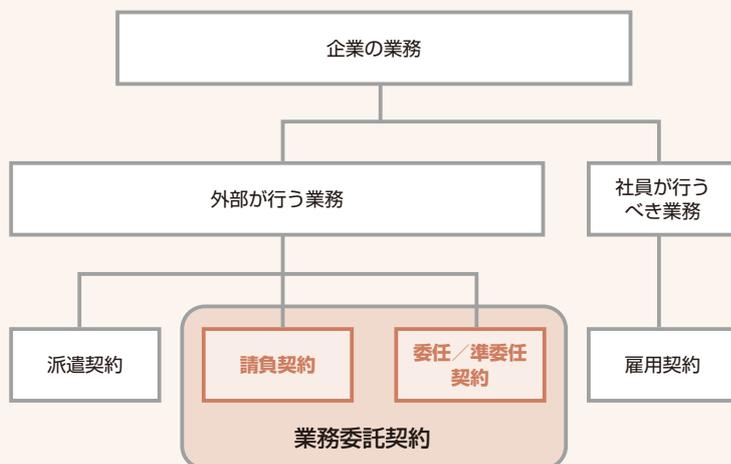
派遣会社と労働者が雇用契約を結び、派遣先の企業で労働する契約です。派遣期間中には派遣先企業から派遣労働者への指揮命令権が発生し、労働者は成果物の完成

責任は負いません。

顧客企業のインハウス社内通訳者様は、通訳エージェントから派遣契約で顧客内に派遣された方々が多いです(もちろん直接雇用された正社員の社内通訳者様もいらっしゃいます)。

【業務委託契約】

企業の業務を外部に委託する契約です。業務委託契約では、業務を委託する企業(委託者)から引き受ける側(受託者)への指揮命令権は発生しません。



協力 ● 株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ

を伴わない業務は準委任契約となります。

委託/準委任契約の場合は、業務を遂行していれば報酬請求権が発生し、受託者には「善管注意義務」のみが生じます。善管注意義務とは「善良な管理者の注意義務」のことで、一般的に注意を払うべき義務ということです。

フリーランス通訳者の仕事が「請負契約」「委任/準委任契約」のどれに該当するかは、顧客企業と通訳エージェントが締結した業務委託契約の内容や受託する予定の業務内容により変わってきます。ただし通訳者の業務は、弁護士のように法律行為を伴わないため「委任契約」には該当しません。

通訳者の「成果物」の定義を設定することは難しいですが、強いて言うならば「通訳者の訳出音声」となります。しかしその「成果物=訳出音声」が顧客の品質基準に達しているかどうかは、それを聞いた会議参加者の主観により異なったりしますし、また顧客企業ごとでも評価が異なる場合が多々あります。

よって、通訳業務を「請負」と「準委任」のどちらの定義に沿って契約を締結するかは、顧客企業の方針や考え方によって決まることが多いです。

業務委託では、契約書の名称ではなく契約内容によって「請負」か「準委任」か、が判断されますが、いずれの場合でも留意すべき点は「通訳者の業務範囲」「成果物の権利の所在」「損害賠償が発生する条件」等を明確に認識し、通訳エージェントと顧客企業でその内容を遵守して業務を遂行すること、と考えております。請負と準委任では責任の範囲が異なるため、トラブルを避けるためには、顧客・通訳エージェント双方の認識のズレを少なくして契約を結ぶことが大切だと考えております。

2. 働き方の実態

業務委託契約の内容が遂行されているかどうかは、契約書の名称ではなく従事する実態で判断されます。

「業務委託契約書」が交わされていても、従事する実態が雇用契約の労働者と同様の働き方をしている場合、企業に雇用された労働者とみなされてしまいます。

通訳現場の事例として、顧客企業内のプロジェクトに常駐し毎日フルタイムで顧客先の社内会議等で通訳業務を行っているような案件がありますが、このような案件は「従事する実態」という点に留意しなければなりません。業務委託契約の場合、顧客企業には「指揮命令権」が発生しませんので、常駐案件であろうと1日だけの単発案件であろうと、委託先である通訳エージェントを通して通訳者に対し指揮命令を出すことが必要です。しかし、通訳エージェントを介さず顧客企業と通訳者が直接現場で「来週の予定や今後のプロジェクト進捗を確認し業務内容を指示すること」や「直接通訳者の予定をアサインすること」は、直接指揮命令しているとみなされ、結果「従事する実態は雇用契約と同然」という状況になってしまいます。このような状況は「偽装請負（偽装準委任）」と指摘される可能性が高いです。

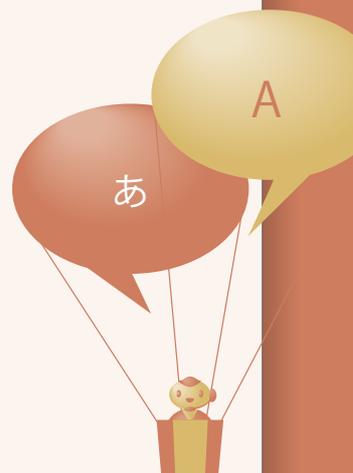
長期常駐案件でこの「偽装請負」のような状況を回避するには、通訳エージェントに雇用されて顧客企業へ派遣される「派遣契約」が、一番法律的にみても問題が無い方法ではあるのですが、ここには顧客企業の問題も多く存在します。以前の連載で触れましたが、顧客企業の多くが、派遣は「人件費」、業務委託は「プロジェクト費」と捉えており、プロジェクト推進のためだけに人件費を掛けることはできない、よって通訳者を派遣契約で受け入れることはできないので、業務委託契約で依頼したい、というケースが非常に多いのが現状です。

また委託者と受託者との間で交わす書面等で、雇用や派遣を連想させるような表現を避けるべきと指摘されたことがあります。例えば「給与」「勤務時間」「残業」「通訳者の派遣」等です。これらの言葉は、業務委託契約書やその見積書、Eメールのやり取りにおいて、「報酬、通訳料」「稼働時間」「超過」「通訳者の提供」等と言葉を置き換える必要があります。少々大げさかもしれませんが、書面の表現ひとつで「偽装請負」と疑われる要因となります。

ただし、通訳エージェントと顧客企業の双方が、業務委託契約の内容を遵守した行動を行えば、長期常駐案件であろうとも業務委託契約で問題はありませぬ。顧客企業への働き掛けと協力を得ることも非常に重要であると考えております。

以上、通訳業務を受託する際の契約について、説明致しました。今回は通訳業務に関する具体的な話ではありませんでしたが、顧客企業から通訳業務を受託する前の大事な行為であることから説明させて頂きました。フリーランスの翻訳者が稼働する翻訳業務も、契約に関しては同様の内容が当てはまるのではないかと考えております。

次号においては、通訳業務の一般的な規定について、具体的に説明したいと思います。



Writer Profile

松田 太郎

Matsuda Taro



東京都出身。11年前に通訳エージェントに入り、通訳部門の営業・通訳手配業務に長らく携わり、国際会議・金融・医療・工業・IT・消費財などあらゆる業種の案件を経験。現在はコングル・グローバルコミュニケーションズにて管理者として部門の業務体制構築を担うとともに、自らも営業・通訳手配の実務に携わる。趣味はお酒を飲むこと、フットサル、ロック鑑賞。

ことばの未来と
テクノロジーを考える

翻訳

テクノロジー

論考



第8回

やさしい日本語からの自動翻訳

立見 みどり

立教大学 異文化コミュニケーション学部 特定課題研究員

翻訳における人とテクノロジーの協働についてさまざまな角度から論じてきたこの連載。第4回と第5回で「普通の日本語」から「やさしい日本語」への言語内翻訳におけるテクノロジーの可能性について考えました。第8回では、やさしい日本語からやさしい英語への自動翻訳の可能性について考えます。

さらに多くの読者に向けて

わたしたちの研究では、文化財の説明文をやさしい日本語に書き換える、あるいは最初からやさしい日本語で執筆することに主眼を置いています。その目的は、なるべく多くの人に文化財のことを理解してもらうことです。日本語をやさしくするだけでなく、それをそのまま自動翻訳でやさしい英語に翻訳できれば、もっと多くの人に理解してもらえる可能性が高まります。

ただ、人間にとって読みやすい文がかならずしも自動翻訳しやすいとは限らないことはこれまでの研究で指摘されています。では、

わたしたちが進めているやさしい日本語はどうだろうか。それを明らかにするため、実際に文化財の説明文を使ってパイロット的に実験してみました。その結果は、なかなか期待がもてるものでした。

やさしい日本語のルール

やさしい日本語を作るためのルールはさまざまなものが提案されてきましたが、わたしたちの研究では、基本ルールとして次の2つを定めています。

- [1] ひとつの文でひとつのことだけを言う
- [2] 日本語能力試験2級以下の言葉と漢字だけを使う

今回の実験では、自動翻訳しやすい原文にするため、もうひとつルールを付け加えました。

- [3] 各文に主語を置く。主語が明示されない場合は受け身の文にする。

実験では、すでにある文化財説明文をこれらのルールに沿って書

き換えるところから始めました。文化財説明文には一文でたくさんのかを言っている長い文も多いので、そのような文は複数の文に分割しました。単純に文を分割すると最初の文にはあった主語が2番目の文では抜け落ちてしまうことがあるため、その場合はなるべく主語を補いました。また、文化財説明文には普段あまり使わないような難しい言葉も多く使われているため、そのような言葉はやさしい言葉に言い換えました。ただし、現在の日本語能力試験ではレベルごとの語彙を定めていないため、旧試験の資料を参考にしました。

たとえば、次のような文があります。

<元の文>

大黒柱は、ケヤキの50センチ角で、上り段は長さ6メートルあるケヤキの一枚板です。

これを上記のルールに沿って書き換えると、たとえば次のようになります（書き換え方は他にもあります）。

<書き換えた文>

中心の柱は「ケヤキ」という木でできています。太さは50センチです。部屋に上がるための段は一枚のケヤキの板でできています。長さは6メートルです。

元の文では複数のことを言っているため、まず4つの文に分けます。それぞれの文には主語を入れました。さらに「大黒柱」、「～角」、「上り段」などの言葉は難しいので、やさしく言い換えます。「ケヤキ」も難しいですが、このような動植物の名前はやさしく言い換えることができません。その場合は、カギカッコなどで囲んで「～という…」という言い方をすることで、その名前が何を示すかわからない人でもあまり不安を感じずに読むことができるでしょう。

自動英訳してみると

以下は、それぞれを自動翻訳した結果の一例です。

<元の文の英訳>

The large black pillar is a single piece of zelkova with a 50 cm square of zelkova, and the uphill is 6 meters long.

<書き換えた文の英訳>

The central pillar is made of a tree called "zelkova". Thickness is 50 cm. The steps to go up to the room are made of a single zelkova board. The length is 6 meters.

元の文の英訳では、「大黒柱」が「large black pillar」、「上り段」が「uphill」と誤訳されていますが、やさしく言い換えた「中心の柱」は「central pillar」、「部屋に上がるための段」は「the steps to go up to the room」と、意味がわかる訳になっています。元の文の英訳では、大黒柱の話と上り段の話が混ざってしまい、「一枚板」の訳である「single piece」が大黒柱の説明になってしまっていますが、文を分割したことでこの間違いが解消されました。

惜しいのは、「tree」です。日本語では生きている樹木も製材された木材も「木」と言えますが、英語ではtreeとwoodは使い分ける必要があります。また日本の建物に興味を持つ人にはぜひ「ケヤキ」という名前を知って欲しいので、「Keyaki wood」のように訳したいところです。英訳用には「ケヤキ」をあらかじめローマ字で書いておくとよいかもかもしれません。今後の課題です。

実験結果

今回のパイロット実験では、元の原文とルールを適用した文を取り混ぜて合計1,226文を英訳し、日本語を母語とする日英翻訳者1名に評価してもらいました。その結果、「多少不自然な表現はあっても、原文の意味がすべて誤りなく英訳されている」ケースは、元の原文の英訳で4分の1程度だったのに対し、ルールを適用した文の英訳では6割を超えました。また、「多少の間違いはあるが、中心的な意味は伝わる」ケースは、元の原文で4割ほどでしたが、ルールを適用した文では8割近くになりました。この結果を見る限り、文化財の説明文の日本語をやさしくすることで、自動英訳の品質も上がることが期待できそうです。

その一方で、ルールを適用したことで返って自動英訳の品質が下がった例もありました。

たとえば、文を分割するときに、日本語では何度も主語を使うとうるさくなるため、主語を補えない場合があります。しかし英文では主語が必要となるため、場合によっては自動英訳で分脈に合わない主語が使われることがありました。その中には、元の長い原文のほうが正確に自動翻訳されたケースもありました。

また、語彙をやさしくしたことで誤訳されたケースもありました。たとえば、「暖炉にタイルが使われています」の「暖炉」が日日本語能力試験の2級の語彙には含まれていなかったため「暖房」と書き換えたところ、「タイルを使って暖房しています」という意味に訳されて

しまいました。「暖房」には「暖房器具」と「部屋を暖めること」の両方の意味が含まれているため誤訳してしまったのでしょうか。このような日本語の落とし穴もあるので要注意です。

いずれにしても今回の実験結果は、予想をはるかに上回る良いものでした。これには昨今のニューラルMTの性能が大きく関係しているように思います。たとえば、1年前に試したときには「手水鉢は手を洗うところです。」が「手を洗おうとしている」の意味に解釈されて「A hand bowl is about to wash my hands.」と訳されていたのが、最近では正しく「手を洗う場所」と解釈され「The hand basin is where you wash your hands.」と訳されるようになりました。ニューラルMTの進歩は目覚ましいものがあります。やさしい日本語からやさしい英語への自動翻訳も、ますます期待できそうです。

Writer Profile

立見 みどり
Tatsumi Midori



ソフトウェア開発会社でのインハウス翻訳者およびフリーランス翻訳者を経て、インベリアル・カレッジ・ロンドンにて「翻訳技術を利用した科学・技術・医学翻訳」修士課程修了(MSc)。ダブリン・シティ大学にて博士課程修了(PhD)。現在、立教大学 異文化コミュニケーション学部 特定課題研究員。「やさしい文化財」プロジェクト研究代表者。

【参考文献】

Miyata, R. & Tatsumi, M. (2019). Evaluating the Suitability of Human-oriented Text Simplification for Machine Translation. Proceedings of the 33rd Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC), Hakodate, Japan, pp.167-175.

キャンパスで学ぶ 翻訳通訳

大学における
翻訳通訳専門教育の現在



第8回 神戸女学院大学大学院 通訳・翻訳コース

西岡 美絵

神戸女学院大学大学院博士前期課程通訳・翻訳コース修了
豪クイーンズランド大学日本語通訳翻訳修士課程修了

神戸女学院大学大学院の通訳・翻訳コースは、文学研究科英文学専攻博士前期課程のコースとして2004年に開講しました。本稿では8期生として2013年3月にコースを修了した筆者が、カリキュラムや、在学中の体験、コース修了後の実践での気づきをご紹介します。

カリキュラム

神戸女学院の通訳・翻訳コースでは、専門性が重視されており、実践経験豊かな先生による理論・実践の両方をカバーする通訳・翻訳の必須科目と、通訳・翻訳のために政治・経済や自然科学の専門知識を身に付ける目的としての選択科目があります。通訳・翻訳の授業で特筆すべきは、英日方向の授業は日本語ネイティブの先生が、日英方向の授業は英語ネイティブの先生が担当されることです。東京在住の先生や、各地を飛び回ってお忙しい先生もいらっしゃるため、翻訳や逐次通訳などはリモートで行われる授業もありますが、それ

ぞれの訳出言語のネイティブの先生から授業を受けることができ、とても贅沢な環境です。専門知識を身に付けるための授業も科目名は「専門領域通訳特論」となっており、それぞれの専門分野の先生が通訳・翻訳コース生のための目線で授業をしてくださり、他学部の授業の聴講では得ることのできない知識が身に付きます。また、英文学専攻には本コース以外にも英文学コースと英語学コースがあり、他コースの学生ともクラスを共にすることがあります。修士論文を書くためにライティングの基礎を学ぶ「English Writing」は英文学専攻共通の必須科目ですし、他にも筆者の在学中には英日翻訳の授業や言語学の授業で他コースの学生と一緒に、それぞれの視点か



ら意見を交換することでお互いに視野を広げることができました。

これら必須・選択科目の授業を受講しての単位取得に加えて、修了の条件としては修士論文の提出があります。「神戸女学院大学院文学研究科英文学専攻修士学位認定基準」によると、修士論文はChicago Manual of StyleかAPAに則って英文50ページ以上（本文はダブルスペース）、または実際に翻訳と訳出時の問題点を分析する翻訳プロジェクトを行う場合は翻訳原文または訳出文のいずれか英語にあたるものが10,000 words以上、分析のコメンタリが20ページ以上であることが提出条件となっています。

社会人大学院としての 特徴

本コースの位置づけは社会人大学院となっています。そのため、日中働いている人でも通いやすいよう、授業は火～金曜日の夜19:00～20:30（1科目）と、土曜日の9:30～16:40（4科目）に行われます。授業の場所も、平日は神戸や大阪からアクセスしやすい西宮北口の駅前にある西宮市大学交流センターで行われ、土曜日に大学のキャンパスを利用します。主に対面で行われる授業が平日に行われ、リモートで行われる授業や同時通訳の授業などテクノロジーや設備が必要な授業が土曜日に行われます。

筆者の学年では学部からの進学が1名、他7名は筆者も含めて仕事をしながら学ぶ社会人でした。メディア業界の人、英会話学校で英語を教えている人、医療や介護に携わる人、子育てをしながら学ぶ人、そして既に通訳者・翻訳者としての経験のある人など様々な背景を持つ学年でした。

筆者の場合は、神戸女学院大学の学部生であったときに通訳・翻訳プログラムを履修し、その際に「訳出の言葉遣いや通訳依頼者とのコミュニケーションを考えると、通訳・翻訳の学習はある程度の



社会人経験があったほうが望ましい」と言われ、学部卒業後3年間社会人経験をした後、フルタイムの仕事が続けたまま大学院に入学しました。通訳者・翻訳者として働いた経験はありませんでした。授業のスケジュールとしては平日の日中の仕事と両立できるようになっていますが、通訳・翻訳は授業外でも継続的な練習が必要です。また研究論文を書くことも集中力と時間を要します。筆者の場合は仕事の時間帯が不規則なホスピタリティ業界にいたこともあり仕事と学業の両立が難しく、また1年目の夏期休暇に留学したこともあって、1年目後期からはパートタイムの別の仕事に移りました。クラスメートも、2年間で修了を目指す場合は徐々に仕事をセーブしたり、仕事をフルタイムで続ける場合には履修や研究のペースを少し落として3年間で修了を目指していました。結果、同期でも修了のタイミングはバラバラになってしまいましたが、多彩な背景を持つクラスメートと時間を共にし、通訳・翻訳以外にもたくさんのお話を学びました。

OJTと修士論文

筆者のように通訳・翻訳未経験で入学した者にとって特に貴重な経験となったのは通訳、翻訳両方のクラスでのOJT (On the Job Training) です。通訳は、神戸女学

院大学に来日している留学生を対象とした授業や、その留学生たちの成果発表、また本学と交流のある近隣大学や西宮市における外国人講師を招いての集中セミナーなどがあります。逐次通訳やブースでの同時通訳、パナガイドを使用している同時通訳など、通訳方式も様々です。先生から最小限の指示はいただきますが、その後の通訳依頼者とのやり取りは学生たちで行う、当日現場での問題には学生たちで対応するなど、実際の現場に近い状況を体験できます。

翻訳は、英日翻訳の授業そのものがOJTとなっています。授業では1冊の本を受講者で分担し、部分ごとに担当を決めて翻訳し、毎週の授業で1人分ずつを皆でレビューし、より良い訳出にするために話し合います。流れとしては、担当者が翻訳し、次の部分の担当者のピアレビューに基づき、コメントを残しつつ授業までに翻訳を仕上げます。授業前にはクラス全員に配布されるので、受講者はそれをレビューした上で、それぞれの意見や解釈を授業の場で共有し、翻訳を仕上げしていきます。最後にまとめてくださるのは先生なのでEnd-to-Endで関わることにはなりません、学生でありながら実際に世に出る出版物の翻訳に携わることは、身の引き締まる思いでした。筆者の在学中には、ダニエル・ジル著『通訳翻訳訓練』(みすず書房)とダイアン・J・グッドマン

著『真のダイバーシティをめざして』(上智大学出版)の翻訳に微力ながら関わることができました。

修士論文を書くという経験も、キャンパスだからこそこの経験ではないかと思います。筆者の場合は、どうしても通訳・翻訳を実践対象とだけ捉えてしまい、なかなか研究対象として見るができなかった辛い思い出ではありますが、先生方のご指導のおかげで自分にあつた研究をすることができました。研究の過程で、通訳理論に関する論文を(通訳・翻訳初心者としては)たくさん読み、かつ現役の通訳者の方々へのインタビューを行いました。実際の仕事での通訳・翻訳経験がないながらも、授業や修士論文執筆を通して一旦机上で様々な理論や倫理問題にふれることができ、少しであってもOJTを通して実際の現場でそれを体験できたことは、筆者を大きく成長させてくれました。大学院の2年間の学びは、後の実践において迷うことがあったときの拠り所となっています。

最後になりましたが、2年間ご指導いただいた先生方(本来であれば教授、准教授などの肩書きでお呼びすべきですが当時と同じ親しみをこめて)、本稿執筆の機会をくださった先輩、資料を提供くださった大学院文学研究科事務室のみなさま、本当にありがとうございました。



Writer Profile

西岡 美絵
Nishioka Mie



神戸女学院大学大学院通訳・翻訳コース修了後、豪クイーンズランド大学日本語通訳翻訳修士課程へ編入。修了後は製薬会社、医療機器メーカー、保険会社の社内通訳を経て、現在はITサービス会社にて社内通訳として勤務。



第71回 JTF<ほんやく検定> 合格者発表

2019年7月27日(土)に実施された「第71回JTF<ほんやく検定>」の結果が発表されました。

実用レベル・英日翻訳

👑 1級 (3名)

(非公開: 1名)

平林 明 (神奈川県)

矢島 有記 (静岡県)

👑 2級 (9名)

(非公開: 2名)

秋田 大樹 (東京都)

植野 美枝子 (アメリカ)

岡田 真実 (京都府)

小林 紘子 (長崎県)

高松 和生 (千葉県)

野口 朋子 (神奈川県)

渡部 亮 (愛知県)

👑 3級 (34名)

(非公開: 10名)

井田 政樹 (東京都)

伊藤 裕之 (愛媛県)

稲塚 利江 (岡山県)

井上 卓也 (京都府)

大澤 一将 (東京都)

梶野 春美 (埼玉県)

川本 良治 (東京都)

木村 健一 (千葉県)

久保田 佳穂子 (東京都)

黒澤 裕之 (東京都)

小林 弘昌 (兵庫県)

下園 卓郎 (東京都)

末永 雅士 (茨城県)

関 宏也 (神奈川県)

高瀬 謙吾 (福岡県)

田代 栄一 (東京都)

鳥居 拓也 (神奈川県)

西本 浩子 (東京都)

野崎 真由子 (アメリカ)

平岡 和久 (大阪府)

星 大吾 (群馬県)

榭谷 聡子 (神奈川県)

山田 裕子 (石川県)

ランサム川嶋 はな (アメリカ)

実用レベル・日英翻訳

👑 1級 (2名)

長正 真由美 (東京都)

山本 裕子 (香川県)

👑 2級 (7名)

(非公開: 1名)

秋田 大樹 (東京都)

市村 恵 (長野県)

西本 浩子 (東京都)

松本 昌彦 (東京都)

吉田 紗希 (東京都)

渡邊 紫乃 (神奈川県)

👑 3級 (14名)

(非公開: 6名)

奥村 智洋 (大阪府)

落合 デニース (埼玉県)

小林 英理 (東京都)

日野 靖子 (千葉県)

松田 光雄 (東京都)

モーガン キンバリー (東京都)

もりなす あーろん (愛知県)

山田 裕子 (石川県)



基礎レベル

👑 4級 (37名)

(非公開：18名)

占部 歩 (奈良県)
岡田 真実 (京都府)
川本 良治 (東京都)
佐々木 奈都記 (アメリカ)
須崎 誠也 (静岡県)
高田 悠 (東京都)
高野 奈央 (茨城県)
高橋 梨沙 (東京都)
高宮 祐二 (東京都)
出口 純也 (福岡県)
寺西 菜摘 (大阪府)
中本 亜希子 (東京都)
藤原 史子 (愛媛県)
本間 博幸 (茨城県)
町田 俊子 (茨城県)
宮本 涼司 (群馬県)
守田 真衣子 (青森県)
山崎 千秋 (東京都)
山中 慎一 (三重県)

👑 5級 (27名)

(非公開：19名)

梶谷 良徳 (大阪府)
高宮 祐二 (東京都)
寺西 菜摘 (大阪府)
バラスリヤドミニク (長崎県)
福本 千尋 (大阪府)
守田 真衣子 (青森県)
山田 郁子 (静岡県)
山中 慎一 (三重県)



第71回JTF<ほんやく検定> 1・2級合格者プロフィール

2019年7月27日(土)に実施された「第71回JTF<ほんやく検定>」で、
1・2級に合格された方々のプロフィールをご紹介します。

項目は以下の4つです。(2020年1月掲載時点)

- ①得意な分野と言語は？
- ②現在のお仕事は？
- ③学歴・職歴と翻訳の実務経験は？
- ④翻訳依頼時の制約条件・希望条件は？



合格者への連絡先は、
「検定合格者リスト
(JTF会員専用サイト)」
https://www.jtf.jp/user/u_0101.do
をご覧ください。

平林 明 (ヒラバシ アキラ)

实用レベル・英日翻訳・情報処理・1級合格
神奈川県在住



- ①コンピュータ全般、特にソフトウェア開発およびプロジェクトマネジメント。
- ②IT関連企業にエンジニアとして勤務。
- ③東京大学経済学部卒業、統計学専攻。その後、複数のIT関連企業でエンジニアとして四半世紀の間に数多くのシステム開発を経験。翻訳の実務経験は、2019年10月現在で次の通り。
・パッケージソフトのマニュアルの日英翻訳
・パッケージソフトの海外ユーザーのメール対応
・プロジェクトマネジメントのテキストの英日翻訳
・プログラミング入門の大学講義用テキストの英日翻訳
TOEIC 920点、英検準1級。情報処理技術者(プロジェクトマネージャ、システムアナリスト、ネットワーク、他)、AWS、IoTシステム技術検定。
④会社に勤務しているので、土日祝のみ翻訳に従事可能。4時間/日程度。

秋田 大樹 (アキタ ヒロキ)

实用レベル・英日翻訳・日英翻訳・政経・社会・2級合格
東京都在住



- ①政治・経済・時事関係。英日・日英ともに対応可能です。
- ②フリーランス翻訳者。
- ③外国語系大学院の修士課程を修了。その後、官公庁にて総務・法務・国際交流等を担当する一方で、翻訳業務も担当しておりました。現在はフリーランス翻訳者として独立しています。TOEIC990、英検1級。
- ④ご依頼につきましては、平日のみ対応可能です。

矢島 有記 (ヤジマ ユウキ)

实用レベル・英日翻訳・科学技術・1級合格
静岡県在住



- ①法律、ITが主な対応分野。法律は法務関係のビジネス文書、ITはマーケティング文書の対応も可。いずれも英日が中心。
- ②国内の翻訳会社で翻訳、チェック等を担当
- ③大学卒業後、商社勤務を経て、翻訳業務を受注しながらいくつかの通訳・翻訳学校に通う。その後数年のチェッカー勤務ののち、現在に至るまで国内の翻訳会社で翻訳・チェックに従事。現在34歳。ほんやく検定は特許分野1級、情報処理分野1級、科学技術分野1級、政経・社会分野2級、医学・薬学分野3級、金融・経済分野3級に合格済み(いずれも英日)。このほか行政書士資格あり(未登録)
- ④平日はフルタイム勤務のため、ご依頼には休日のみ応じることが可能です。

岡田 真実 (オカダ マミ)

实用レベル・英日翻訳・金融・証券・2級合格
京都府在住



- ①金融、証券を中心とするビジネス全般。英日を得意としていますが、ビジネス文書等の日英翻訳も一部手がけています。
- ②2020年1月からフリーランス翻訳者になる予定です。
- ③神戸大学国際文化学部を卒業後、メガバンクに9年間勤務。国際審査部門に所属し、東京の他シンガポール、香港に駐在し、コーポレートファイナンス、プロジェクトファイナンス、証券化ファイナンス等の審査を担当。業種は自動車、鉄鋼、造船、建設、石油石化、ノンバンク等。社内翻訳(日⇄英)も手がけていました。2019年7月より、通信講座で実務翻訳を学びながら、翻訳会社からの仕事も引き受けています。英検1級/TOEIC990点。
- ④平日に週3~4日翻訳に従事できます。英日の場合、1日1,500~2,000ワード対応可能です。2020年4月以降は土日でも対応可能となります。



小林 紘子 (コバヤシ ヒロコ)

実用レベル・英日翻訳・政経・社会・2級合格
長崎県在住



- ①合格分野は政経・社会ですが、経験としてビジネス、マーケティング関係の経験もあります。現在英日のみで翻訳を行っています。また、医薬、技術、法律翻訳についても大学院の授業で行いました。
- ②オーストラリアの大学院を2019年11月に修了後、インハウスの通訳・翻訳またはフリーでの翻訳を考えております(2019年10月末時点未定)
- ③大学では法学部で国際法を専攻、その後2007年～2018年まで大手総合商社で貿易および投資業務に総合職として携わり、2018年～2019年にオーストラリアの大学院で日英通訳翻訳修士課程で学習しました。翻訳の経験としては、一般的な内容の翻訳、マーケティング資料(会計事務所ウェブサイトなど)の翻訳等をお仕事として経験し、授業の中ではビジネス、経済、技術、医薬、法律の勉強をしました。
- ④お仕事の依頼は、喜んでご相談させていただきたく思います。英日の場合、1週間に英語200ワード15枚程度可能です。(2019年10月末時点でフリーランスの前提で記載しておりますが、就職した場合、条件が変更となる可能性がございます。)

高松 和生 (タカマツ カズオ)

実用レベル・英日翻訳・政経・社会・2級合格
千葉県在住



- ①ジャーナリズム、広告・マーケティング、ニュースレター、PR、社内文書(HR、企業コンプライアンスなど)、特許申請、契約書、患者向け治験関連文書(インフォームドコンセントなど)、字幕、その他。主に英日。テクニカルまたは高度に専門的な内容でなければ日英も可能。
- ②米系翻訳会社の和訳校正・品質管理者。米国東海岸在住。
- ③米州立大学ジャーナリズム学部ビジネスコミュニケーションズ学科学士号取得。同大学卒業後、日系大手新聞社の米国子会社に入社。広告営業を担当し、翻訳雑務などもこなす。約2年半の勤務後、同社の米事業撤退に伴い転職し、上記2の現職であらゆる分野の和訳校正・品質管理を担当中。同翻訳会社勤務15年(2019年現在)。英検1級、TOEIC 920点(2003年初回受験時のスコア)、漢字検定2級。
- ④現在、翻訳会社正規社員のため、土日(米東海岸時間)、米国祝日のみ対応可能という制約がございますが、何かのお役に立てれば幸いです。

渡邊 紫乃 (ワタナベ シノ)

実用レベル・日英翻訳・情報処理・2級合格
神奈川県在住



- ①IT、機械(特にプリンター)、ビジネス。現在のところ日英のみ可能です。
- ②機械メーカーの社内翻訳者。社内向け英語広報の管理や新人翻訳者の育成にも関わっています。フリーランス翻訳者に転身希望。
- ③東京外国語大学(英語専攻)卒業。機械メーカーにて研究開発関連の翻訳に従事。仕様書、手順書、技術標準、図面注記、リリースノートなどの技術文書や、議事録、会議資料、レターなどのビジネス文書の翻訳に携わっています。またUI、インダストリアルデザイン関連の通訳経験もあります。
- ④平日は会社に勤務しているため、平日夜間と土日のみご依頼に応じることができます。日英翻訳で、週に2,000～3,000文字を目安に対応可能です。

西本 浩子 (ニシモト ヒロコ)

実用レベル・日英翻訳・政経・社会・2級合格
東京都在住



- ①日英・英日両方にて、政治経済、IR、ニュース報道、IT、通信、アパレル、ファッション、マーケティング、プレスリリース、規程類、契約書等に幅広く対応しております。また、上智大学外国語学部英語学科で英国研究を専攻していたため、英国・アイルランドの文学・歴史、欧州政治全般、西洋史・西洋美術全般についても通曉しております。趣味である、バレエ、フィギュアスケート、ミュージカル関連にも対応可能です。ITソフトウェア翻訳士認定試験1級合格。米国公認会計士(USCPA)のFAR(財務会計)科目合格。
- ②フリーランス翻訳者。
- ③上智大学外国語学部英語学科卒業(英国バーミンガム大学への交換留学経験あり)。外資系アパレル、大手通信キャリア、国際税務専門の会計事務所等にて、日英・英日の社内翻訳(時に逐次通訳)に従事。2018年よりフリーランスとして独立(定期案件あり)。社内翻訳を含めた翻訳歴は約10年。国際機関のプレスリリース和訳、官公庁の会議資料の英訳、企業の事業報告書や決算資料の英訳、ニュース報道の英訳、各種規程類・利用規約やITマニュアルの英訳、契約書の和訳、アパレルのマーケティング資料やCSR関連の和訳等、幅広く対応しております。将来的には文芸翻訳の分野にも携わりたく、日々勉強を重ねております。
- ④日英・英日の両方で、翻訳のご依頼に対応可能です。スケジュールや分野、タイミング等にもよりますが、原文ベースで最大約3,000～4,000文字/日(日英)、約1,500ワード/日(英日)対応可能です。土日祝日も対応しておりますので、詳しくはご相談くださいませ。

野口 朋子 (ノグチ トモコ)

実用レベル・英日翻訳・情報処理・2級合格
神奈川県在住



- ①IT全般(主に英日)。ハードウェア/ソフトウェアのマニュアル、UI、ヘルプ文書、メッセージ、マーケティング資料、技術文書、データシートなどに対応可能。
- ②フリーランス翻訳者。
- ③文学部英文学科卒業(翻訳ゼミを専攻)。卒業後は貿易事務、技術文書の英日/日英の翻訳チェッカーを経てフリーの翻訳者になりました。翻訳実績は、HRMS/CRM/ERP系ソフトウェアアプリケーション、コンピュータネットワーク機器開発メーカーの製品マニュアルの英日翻訳、映画のあらすじの日英翻訳など。現在は人事管理システムのUI、マニュアル、マーケティング資料の翻訳/レビューのほか、翻訳後の実機確認をしています。
- 保有資格: 日本規格協会翻訳者登録制度PT(英日、分野: 工業・科学技術)、TOEIC 955点、工業英検2級。
- 訳書: 株式会社東京化学同人『ケイン基礎生物学』(共訳)。
- ④2019年10月現在、翻訳会社からの依頼に応じることができませんが、定期的に受けさせていただいている仕事との調整が必要です。土日・祝日の対応を含め、詳しくはご相談下さい。よろしく申し上げます。

募集

広告募集のおしらせ

翻訳者、翻訳会社を対象とする広告や特集記事に関連する広告を随時募集しています。詳しくはJTF事務局までお問い合わせください。

JTF事務局 : TEL 03-6228-6607
E-mail info@jtf.jp

Next Issue

翻訳の現在を知る

次号
予告

JTF

#306 2020 03/04 JOURNAL

2020年3月6日発行予定

※発行日や内容は変更になる可能性があります。

特集「翻訳ソリューション研究」(仮題)

次号特集では機械翻訳を実用化して産業翻訳の顧客の仕事の進め方に大きな影響を与え、その結果として産業翻訳の市場にも影響を与えつつある翻訳ソリューションについて特集する予定です。ご期待ください。

読者アンケートのお願い

より良い誌面づくりのために皆様のお声をお聞かせください。

<https://forms.gle/Mch8x3pttmPrbzK36>



Editor's note

Game Changer

AI翻訳台頭以前の翻訳会社の経営は基本的には「経営者とその指揮命令下にある従業員」vs.「フリーランス翻訳者」の相互不安依存構造の上で微妙なバランスを取り続けるゲームだったが、AI翻訳という技術革新が短期間にこの基本構造を刷新してしまい、現在は経営・翻訳・技術の三すくみ状態になった。ほんの三年前まで翻訳会社にとってITは周辺的な要素であり、ITの導入や運用で失敗しても「せいぜい」業務効率と従業員の士気が落ちる類の課題だったが、いまやITを活用できない翻訳会社はこれを活用する新しい競争相手によって市場から駆逐されつつある。

新技術とその影響を考察するうえで戦争の歴史は教訓に満ちている。19世紀後半、ビスマルクとモルトケに導かれた小国プロイセンは参謀本部・電信・鉄道というイノベーションを組み合わせさせた新システムを武器にナポレオン三世の大国フランスを打ち負かしてドイツ第二帝国を誕生させる。しかし、プロイセンのこの軍事的成功は電信や鉄道という技術だけで実現されたものではなかった。

実際、1870年のフランス陸軍にはすでにプロイセンのニードル・ガンを性能で上回る後装ライフル銃があったし、ナポレオン三世は新兵器の重要性をよく理解して新式ライフル銃の生産を急がせていた。それでも、フランス陸軍上層部は伝統と実績のある従来の戦術を変更する必要を認めず、旧来の戦術に組み込まれた新兵器はついにその本領を発揮することがなかった。

新技術はそれが存在するだけではその潜在価値を発揮できず、軍事教練を發明したマウリッツや参謀本部を駆使したモルトケのように、その新技術の本質を深く理解した人物が歴史の表舞台に登場することによってはじめてその本領を発揮する。

この歴史の教訓は今日のAI翻訳という新技術にも当然に妥当するだろう。次にゲームを変えるのは誰だ？

編集長 河野 弘毅
Kawano Hiroki

参考 ウィリアム・H・マクニール『戦争の世界史—技術と軍隊と社会—』(中公文庫、上下巻)

JTF JOURNAL

JTFジャーナル

2020年1/2月号 #305

- 発行 ● 2020年1月17日
- 発行人 ● 東 郁男(会長)
- 編集人 ● 河野 弘毅
- 発行所 ● 一般社団法人 日本翻訳連盟
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-2 宝国ビル7F
TEL 03-6228-6607 FAX 03-6228-6604
info@jtf.jp <https://www.jtf.jp/>
- 企画・編集 ● 広報委員会
- 表紙撮影 ● 世良 武史
- デザイン ● 中村 ヒロユキ(Charlie's HOUSE)
- 印刷 ● 株式会社 プリントバック



SDL* Trados Studio SR2

世界シェアNo.1*の翻訳支援ツール「SDL Trados Studio」は、高品質かつスピーディな翻訳を実現します

<SDL Trados Studioの主な特長>

- ◆ 翻訳作業のクオリティとスピードを向上
- ◆ 翻訳作業の標準化
- ◆ 正確なプロジェクト管理
- ◆ ストレスフリーな作業環境

～まずは30日間無料トライアル版をご体験下さい！～
詳細はウェブサイトをご覧ください

個人翻訳者 & 翻訳会社の方
sdltrados.com/jp

一般企業勤務の方
sdl.com/jp

*世界最大の翻訳者ネットワークであるProZ.comが2013年に実施した調査によると、翻訳者の73%がSDL Tradosを利用しています

© 2019 SDL plc. All Rights Reserved. SDLの名称とロゴ、およびSDL製品名とサービス名は、SDL plcおよび/またはその子会社の商標であり、その一部は登録商標である可能性があります。その他の会社名、製品名、サービス名は、各所有者に帰属します。

SDLジャパン株式会社
東京都目黒区上目黒2-1-1 中目黒GTタワー4F
お問い合わせ(Trados Studio販売窓口)

03-5773-1471
sales-jp@sdl.com



業務拡大につき急募!

エンターテインメント分野(映像関係)、
金融関係にご対応いただける
翻訳者を募集しています。

未登録の方

<https://midoriga.me/login/> からご登録→トライアルを入手。
他にも様々なトライアルを用意しています。

登録済の方

新たな分野にとりくみたいとご希望の方は toin_contact1@to-in.co.jp までご連絡ください。

Communications for
a global marketplace



TAKARA & CO GROUP

親会社である宝印刷株式会社が持株会社体制に移行し
商号を変更しました。

十印は TAKARA & CO グループの一員です。

十印は事業部制をとり
3つの事業を柱として言語・ドキュメントに関わる
サービスを展開します。

<翻訳事業部> <MT 事業部> <派遣事業部>

3月11日の「自動翻訳シンポジウム」に出展します。

お知らせ!

